みやぎの市町村レビュー

富谷町

1．位置・面積

富谷町は、宮城県の中央部に位置し、仙台市からの距離は15km程度、面積は49.13km²（県内36市町村中31位：合併した自治体の計数は旧市町村の合計値、以下同じ。）となっています。

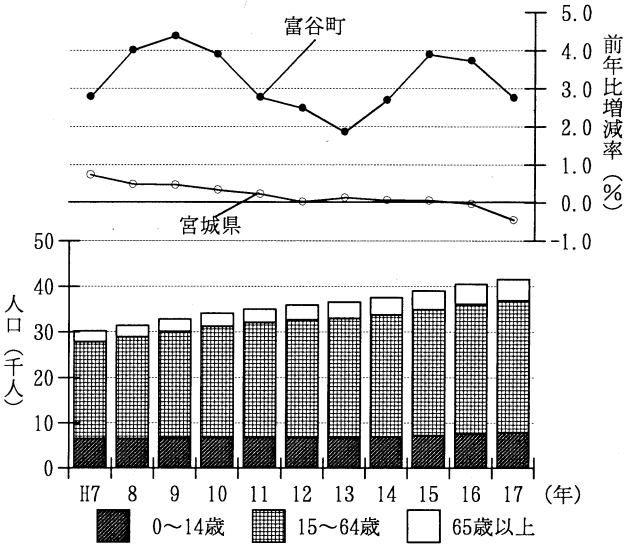
2．人口動向

富谷町の人口（平成17年）は、41,593人であり、県内36市町村中12位となっています。

平成7年以降の人口の推移をみると、一貫して増加を続けています。平成7年対平成17年の人口の増減状況を市町村別にみると、当町は人口増加率が大きい方から数えて1位となっています。

また、平成17年における年齢階層別人口（年齢不詳を除く）をみると、年少人口（0～14歳）が7,879人（構成比：18.9%）、生産年齢人口（15～64歳）が28,940人（同69.6%）、老年人口（65歳以上）が4,725人（同11.4%）となっています。

富谷町の人口の推移



注）各年10月1日現在。
資料：総務省「国勢調査報告」、宮城県「宮城県推計人口」

3．産業構造

富谷町の町内総生産額（平成15年度）は830億円であり、県内36市町村中17位となっています。

富谷町の町内総生産額を産業別にみると、不動産業が204億円と最も多く、次いで卸売・小売業（152億円）などとなっています。

また、産業別生産額の構成比を宮城県と比べてみると、不動産業（24.5%）や建設業（11.0%）のウェイトが高い一方、製造業（5.3%）やサービス業（14.3%）のウェイトが低い状況となっています。

富谷町の産業別町内総生産額（平成15年度）

	実額（億円）		構成比（%）	
	富谷町	宮城県	富谷町	宮城県
農業	5	980	0.6	1.2
製造業	44	13,216	5.3	15.7
建設業	92	4,843	11.0	5.7
卸売・小売業	152	13,078	18.3	15.5
金融・保険業	22	4,163	2.6	4.9
不動産業	204	12,285	24.5	14.6
運輸・通信業	88	7,551	10.6	9.0
サービス業	119	17,315	14.3	20.5
公務・その他	104	10,836	12.8	12.9
合計	830	84,267	100.0	100.0

資料：宮城県「宮城県市町村民経済計算」

４．市町村民力

富谷町の民力（平成18年）をみると、経済社会活動の総合力を表す基本指数は124となり、県内36市町村中15位となっています。成長性を表す同増加指数（12,240）は事業所数や従業者数の増加などを背景として、1位となっています。

一方、総合的な産業力を表す産業活動指数（95）は20位となっています。また、同増加指数（12,893）は、卸売・小売業従業者数や卸売・小売業販売額の増加などにより商業・サービス業指数（14,548）が1位となったことなどから、全体では1位となっています。

富谷町の民力（平成18年）

		指数	順位
基本指数		124 (12,240)	15 (1)
産業活動指数		95 (12,893)	20 (1)
	農業・漁業指数	34 (10,640)	34 (3)
	製造業・建設業指数	113 (11,751)	18 (8)
	商業・サービス業指数	87 (14,548)	16 (1)

注1）（　）内は増加指数。順位は36市町村中。
2）基本指数は人口や市町村内総生産など5指標、産業活動指数は農業産出額や製造品出荷額等、卸売・小売業販売額など15指標を合成し作成。基本指数、産業活動指数は市町村合計=10,000とした万分比、増加指数は平成13年対平成18年の増加倍率（市町村平均=10,000）。

資料：当行「平成18年宮城県内市町村民力」

５．地域資源と温故知新 ～富谷町の特産品・ブルーベリー～

富谷町は、仙台市に隣接する地域を中心に、人口集積が進む都市化の進展が著しい町ですが、県内有数のブルーベリーの産地としても知られています。

ブルーベリーは、ビタミンＡや鉄分、視力回復に良く効くアントシアニン色素が多く含まれる自然食品であることから、特に都市部での人気が高いほか、医薬品開発でも注目されているなど、近年一躍注目を浴びている果物です。

富谷町はもともと稲作が中心の町ですが、減反政策に伴う転作を機に、数戸の農家で組織する生産組合がブルーベリーの栽培をはじめました。栽培当初は試行錯誤が続いたものの、幾多の苦難を乗り越え、無農薬等環境にやさしい特別栽培農産物として県の認定を受けて産地のイメージアップをはかり、近年の健康志向の高まりとともに人気が急上昇し、今では赤石地区等を中心に県内有数の栽培面積を誇り、町を代表する特産品に成長しました。

安全・安心の健康食ブームが続く中、生産組合員数の増加とともに収穫量も増え、ジャムや黒酢などの加工販売に力を注いでいます。さらに、贈答品向けの大粒の品種や地場消費向けの栽培期間長期化に適合した新品種の採用など、多様化する消費者ニーズに対応した品種構成や栽培体系をとるなど研鑽に余念はなく、これまで磨き上げた地域資源の付加価値向上に向けて取組みを強化しています。また、摘取り農園を設置し都市との交流にも積極的に取組み、新しい観光スポットとして誘客につとめているほか、町内の学校給食にブルーベリージャムを取り入れ、食育と地産地消の推進も行われているなど、多方面にわたる活動が続けられています。

労働力の制約などから収穫量に限界があり、栽培面積の積極的な拡大策がとりにくいなど課題はあるものの、仙台市に隣接する地の利を活かした販路拡大や観光農園を通じた交流人口の増加に伴う地域振興などさらなる活性化が期待されます。

富谷町産のブルーベリー

ブルーベリーの摘取り風景

ブルーベリーの加工品